

# 永遠のいのちの約束

- 「人生で一番大切な日が二つある。  
一つは自分が生まれた日。もうひとつは、何のために自分が生まれたのかを発見した日である。」  
(マーク・トウェイン)
- (1) 「これはアダムの歴史の記録である。神は、人を創造したとき、神の似姿として人を造り、男と女に彼らを創造された。彼らが創造された日に、神は彼らを祝福して、彼らの名を「人」と呼ばれた。アダムは百三十年生きて、彼の似姿として、彼のかたちに男の子を生んだ。彼はその子をセツと名づけた。セツを生んでからのアダムの生涯は八百年で、彼は息子たち、娘たちを生んだ。アダムが生きた全生涯は九百三十年であった。こうして彼は死んだ。」(創世記5章1～5節)
- ノアの洪水前、世界は最高の環境
  - 不老不死の薬を求めた秦の始皇帝。49歳で没。権力の座にいたのは11年。
  - 佐藤愛子さんいわく、「90歳、何がめでたい」がベストセラー。
  - 川柳「足がだめ、目がだめ、耳もだめ、いいのは脳みそ、ちょっとだけ」
- (2) 「祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうがよい。そこには、すべての人の終わりがあり、生きている者がそれを心に留めるようになるからだ。」(伝道者の書7章2節)
- 吉田兼好の徒然草  
「命長ければ辱多し。長くとも四十(よそじ)に足らぬほどにて死なんこそ、目安かるべけれ。」  
実際は69歳で死。  
賀茂神社の競べ馬  
「我等が生死(しょうじ)の到来、ただ今にもやあらん。  
それを忘れて、物見て日を暮す、愚かなる事はなほまさりたるものを」
- (3) 「野の花がどうして育つのか、よく考えなさい。働きもせず、紡ぎもしません。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くして下さらないでしょうか。」(マタイの福音書6章28～30節)
- イスラエルのアネモネ。炉に投げ込まれる(燃料)。
  - パリの古道具屋で買った、安い琥珀のネックレス  
「ナポレオン・ボナパルトからジョセフィーヌへ」
- (4) 「もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」(コリント人への手紙第一 15章19, 20節)
- 根拠の有る希望
  - キリスト教信仰の二本の柱  
「イエス・キリストの十字架」「イエス・キリストの復活」
  - 死んで終わりでは無い最終的な最強の説明
  - ハーバード大学法学部創設者 サイモングリーンリーフ 結論「キリストの復活はあった。」
- (5) 「私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。」(ピリピ人への手紙3章20節)
- 「私たちの本国は天にあります」(共同訳)